

## Feature Articles

# スポーツ専門チャンネル トップインタビュー

## コンテンツ戦略&放送外事業への取り組み

- 8 GAORA SPORTS      10 J SPORTS      12 スカイA  
【関連TOPIC】  
14 WOWOW『WHO I AM』  
16 スポーツ系メディア一覧

## Special Interview

- 6 (一社)日本ケーブルテレビ連盟 理事長 渡辺克也氏

## Special Report

- 32 「APSCC 2021」バーチャル会議(6) 取材・文/神谷直亮

## Special Topic

- 59 ゲオ「携帯電話の利用状況調査」実施

## セミナー情報

- サテマガBI オンラインセミナーのご案内  
31 《若手主体》第2回 オンラインセミナー&ディスカッション  
『映像メディアの盛衰にみる次の一手 ~温故知新でDX&大競争時代を乗り切れ!~』  
講師:鈴木祐司  
60 サテマガBI オンラインセミナー連動企画『[C][A][T][V]に当てはまる言葉』優秀作発表

2021  
8  
AUGUST

## Series Articles and Columns

- 18 放送ビジネスの政治経済学 ② 文/音 好宏  
20 メディア・リサーチ「民放70年の知恵」(上) 文/鈴木祐司  
22 メディアまんだらげ ②③ 「2020年度ケーブルテレビの決算公告を見る」取材・文/猪股英紀  
26 地産飛翔~ケーブルビジネス関連動向  
(気になるトピック / 機器チェック!)  
30 5G Trends ⑤ 「未来の映像消費」取材・文/水野秀幸(情報通信総合研究所)  
36 アジア衛星TV最新情報 ③④ 文/長瀬博之  
38 日本で受信可能なアジア衛星TV一覧  
43 Official Information  
スカパーJSAT / 衛星放送協会 / 日本CATV技術協会 / 日本ケーブルラボ / CRI  
47 Information 新作映画紹介 & Convention  
48 考えるメディア ③④ 文/福田 淳  
49 ワハハ本舗 喰始のエンターテインメントのツボとボツ ④⑤ 文/喰 始  
50 NEWS FILE 2021年6月29日~8月2日  
61 料理研究家 吉原ひろこのラクルールcooking  
「@という間の自在「芽映え寿司」」レシピ/吉原ひろ子



## DATA

- 34 CS-CHANNEL RANKING  
63 定期購読のおすすめ  
64 購読オーダーシート  
65 Back Number

## 〈読者の皆さまへ〉

「DATAページ」(各プラットフォーム別加入状況および業界動向データ、CS/BSバイテレビ接触率ランキングなど)の掲載を今号も見送ることとなりました。上記各種データは、誌面には掲載していませんが、2021年8月10日に弊社HP (<http://www.satemaga.co.jp/>)にPDFにてアップしております。お手数ですが、こちらから閲覧くださいますようお願い申し上げます。

2021年8月10日

サテマガ・ビー・アイ(株) 月刊「B-maga」発行人 一瀬悦子/編集長 池和田一里



有料放送&VODビジネスがわかる! 新社会人にもオススメの一冊



## メディア融合時代到来!

### 【コンテンツ至上主義】視聴者が「選ぶ」メディアは?

多チャンネル放送研究所 + 音 好宏(上智大学教授&多チャンネル放送研究所所長) 編著

急速に台頭してきた有料動画配信サービス(OTT)の利用実態や、その潜在的ニーズ等を明らかにするとともに、多チャンネル放送に与える影響、多チャンネル放送とOTTとの関係等を分析。メディア融合時代の多チャンネル放送の今と未来を読み解きます。

定価:2,200円(税別)

- 編著:多チャンネル放送研究所 + 音 好宏所長
- 編集・発行:サテマガBi
- 発行日:2016年12月25日
- ページ数:182ページ
- サイズ:A5判



※購入は大手書店、Amazon、サテマガBi HPにて

## CLOSE SHOT

### 高校生が衛星開発・打上げに挑戦! クラーク記念国際高等学校「宇宙教育プロジェクト」始動

クラーク記念国際高等学校(北海道深川市、三浦雄一郎校長)と、東京大学大学院工学研究科、Space BD(株)(東京・中央区、永崎将利社長)は、クラーク国際開校30周年の記念事業の一環として「宇宙教育プロジェクト」を開始する。

7月1日に行われたオンライン発表会では、流暢な英語を話す同校宇宙探求部の生徒4名をはじめ、東京大学大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻の中須賀真一教授(写真右から3人目)、Space BDの永崎社長(写真右から2人目)、プロジェクトアンバサダーに就任した宇

宙飛行士の山崎直子氏(写真左から3人目)が登場。中須賀教授は「衛星開発はモノづくりや科学技術だけでなく、プロジェクト管理や対外交渉など様々な勉強の素材の宝庫。衛星を作るのはとてもしんどいことですが、その先にある大きな喜びを目指して頑張りましょう」とエールを送った。

本プロジェクトでは、中須賀教授による指導とSpace BDによる支援の下、高校生が主体となった人工衛星「クラーク衛星1号機(仮)」の開発、地上での各種環境



試験、官辺申請、打上げ後の軌道上の衛星の運用までを実施。衛星は10cm角の1Uサイズ(キューブサット)の予定で、2022年度の打上げを目指す。